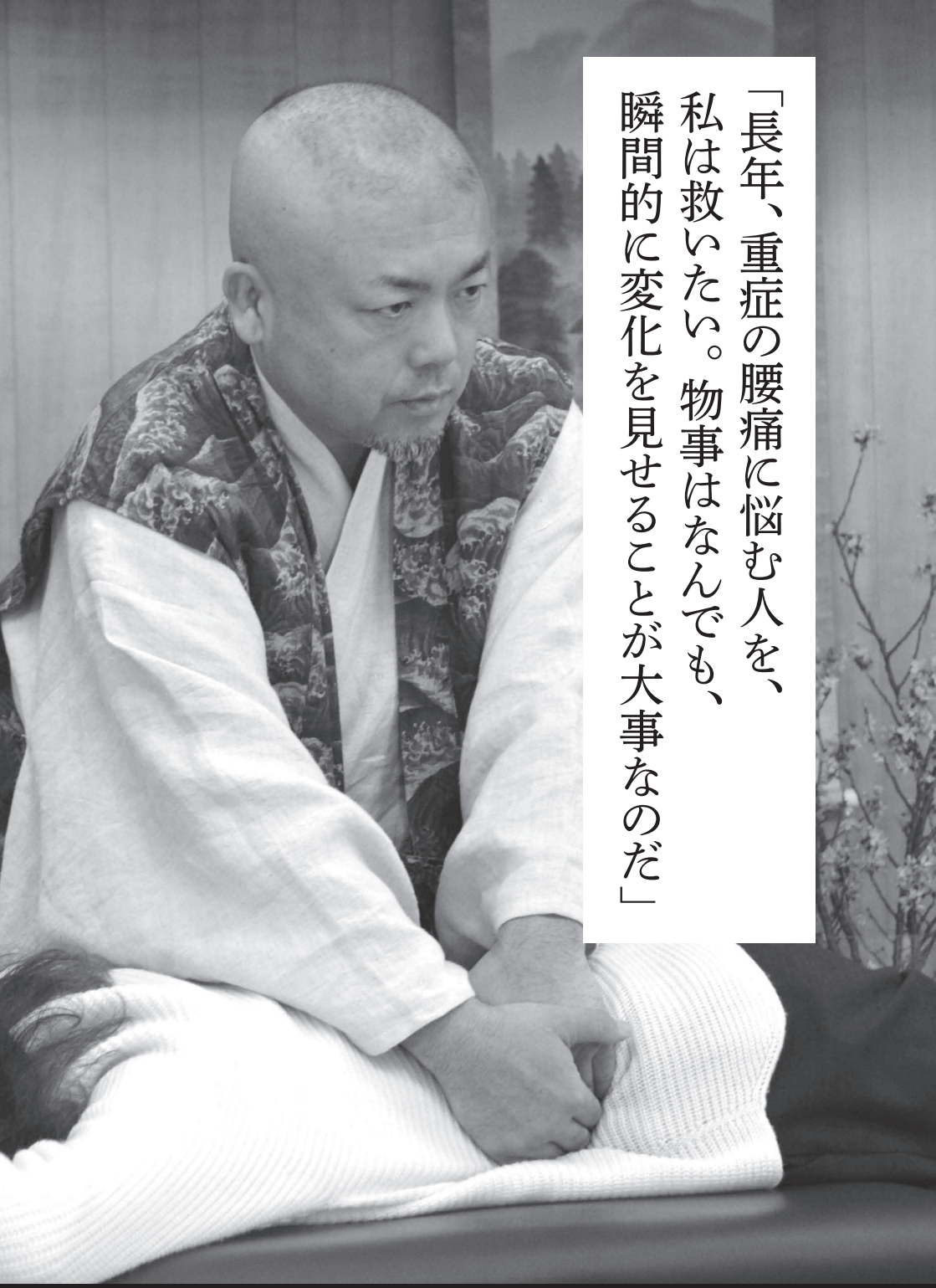
「腸脳療法」という奇跡の施術法を生み出した波乱の療法家

「どこに行っても治らない、重症の腰痛は自分が治す」――植村心覚和尚のその矜持を支えているのは、「腸脳療法」という類いまれな治療だ。腸こそが脳を支配する最上位の臓器であり、それは宇宙のエネルギーとつながっている。瞬時に効果を見せるその技は、今日も全国のセミナーで多くの人を魅了しているに違いない。

腸脳療法アースホワイト代表

植村心覚（うえむらしんがく）和尚

腸脳療法創始者。少・青年期、劣悪な環境のなかでの生活を強いられ、そんななか出会った少林寺拳法の達人から整体を学び、その世界に開眼する。修業の過程で知った「非接触治療」に強い衝撃を受け、エネルギーや波動の勉強を開始。その後もさまざまな不運に見舞われるが、すべてを自らの成長の糧として、完全瞬間非接触のオリジナルカイロやBRT、そしてついに腸で脳神経を操作する「腸脳整体」、さらに進化した「腸脳療法」の開発へとつなげていく。



「長年、重症の腰痛に悩む人を、
私は救いたい。物事はなんでも、
瞬間的に変化を見せることが大事なのだ」

そこは難病専門の治療院だった

「病院各種治療院に3ヵ月以上通って治らない方のみお受けします」

名刺に書かれたこのフレーズに、まず惹かれた。これだけの自信を持っている治療家とは、どんな人なのだろうか。記者は、大きな期待と、少しばかりの怖れを抱きながら、治療院のある金沢に向かった。

訪ねた和尚は、「腸脳療法」という、オリジナルの療法を提唱している植村心覚和尚だ。神棚を背に、袴姿で迎えてくれた植村和尚は、なにやらいかめしい。しかし取材が始まると、そのいかめしさはすぐに消えて、一生懸命な、そして少しばかりやんちゃな表情が現れた。

その和尚の口から出る言葉は、意表をつくものばかりだった。

「ここには、脳梗塞やアトピー性皮膚炎、がんなど、難病といわれるような患者さんばかり来る。たとえば、脳梗塞で6ヵ月以上経つと、劇的改善はあり得ない。脳が壊れて、（筋肉を曲げる）屈筋命令が出続けるからだ。そんな状態の人でも、腸脳療法を受ければ、屈筋命令を消し、（筋肉を伸ばす）伸筋命令が出るようになって、改善していく」

「ただし」と、和尚は言葉を続ける。

「だんだん良くなるというのでは、意味がない。物事はなんでも、瞬間的に変化を見せることが大事。気づくとその場で痛みが消える、気づいたら病気はその場で治っている。これはひと目見てわかる。そして心の悩みも瞬間的に消える。ゆえに、うちは施術のことを一目瞭然という意味も含め『治瞭』と言っている」

難病でも、瞬時に改善するということなのだが、ここは難病の人ばかりなのだろうか。

「重症の腰痛患者さんも大勢来ます。私は腰痛でも、内臓から見ている」

腰痛を内臓から見る。内臓というのは、腸なのだろうか。即座に効果が出る腸脳療法とは、どんなものなのだろうか。

腸脳療法とは何か。まず、そこから聞いた。

脳の上位にある腸。その腸にアプローチする腸脳療法

脳は全身の指令塔であり、すべての体の機能は、脳や神経が司っている。一般的に、脳と体の関係はそのように捉えられている。ところが、植村和尚の考えはそうではない。

「脳より上位にあるのは小腸だ。もともと筋肉、骨格、内臓への命令は、小腸内壁から出ている。それが脳で変換されて、筋肉や骨格への命令となって伝達される。脳に命令しているのは小腸だから、脳が壊れても、小腸で症状を回復させることができるのだ」

その小腸へのアプローチが、腸脳療法ということになる。

腸が脳の上位にあるということは、腸がすなわち脳である。なぜ、そこに気づいたのか？

「米国ミネソタ大学のダニエル・ギャラハー博士が小腸洗浄の研究をやっており、ホルモンの9割は小腸から分泌されると発表している。それがきっかけになって、小腸に興味を持つようになった。それから、いろんな本を読みあさって小腸のことを研究し、何千人という人に試したところ、百発百中で顔面三叉神経の検査が消えたのだ」

顔面三叉神経検査とは、植村和尚考案の独自の検査法。脳神経の一つ顔面三叉神経を見れば、体のどこが悪いかひと目でわかるという。

「脳の異常は、顔面三叉神経にカルシウム蓄積という形で現れる。この蓄積されたカルシウム

を、私はＢＩＭ（Brain Inactive Material）と呼んでいる。ＢＩＭとは『脳内不活性物質』という意味だが、この顔面神経のカルシウム蓄積で、内臓、骨格筋、精神面がどのように悪くなっているか、瞬時にわかるのだ」

腸に触るだけで脳の命令が変わり、体が変わる

なぜ顔面三叉神経にカルシウムが溜まるのか。和尚の説明によると、こうだ。

脳からは微弱な電流が流れていて、神経や筋肉を動かしている。この電気の流れに関係するのが、カルシウムイオンだ。カルシウムとマグネシウムは常に血液の中を流れていて、カルシウムが筋肉の中を流れたとき、電気は強くなる。それを中和するのが、マグネシウムだ。

たとえば、上腕二頭筋にカルシウムが流れ込むと、この筋肉の端から端まで、電気が強く流れる。それによって、上腕二頭筋をギュッと縮めることができる。

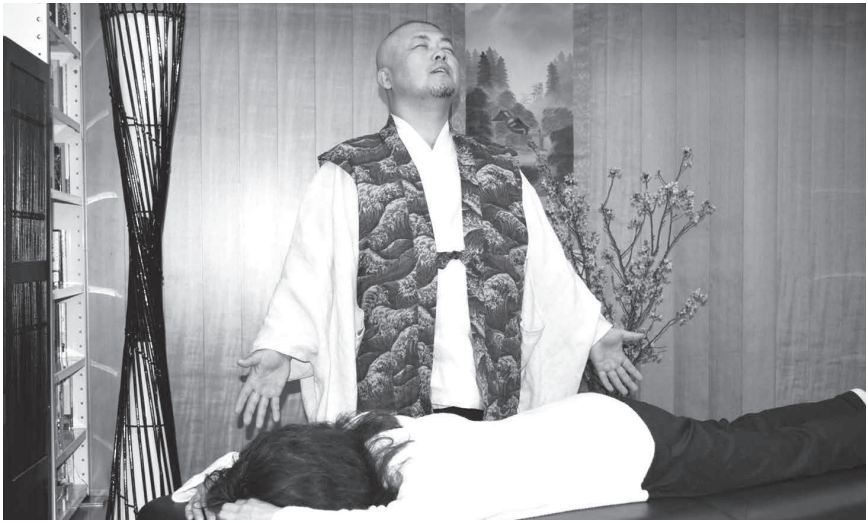
ところが、加齢とともに、筋肉の中に流れたカルシウムがだんだん戻りにくくなる。それが筋肉の中で石灰化すると、四十肩や五十肩のような痛みとなって現れる、というわけだ。

同じように、顔面三叉神経にもカルシウムが流れ込む。それが石灰化してＢＩＭになると、そこに対応するところに痛みや症状が出る。それを見つけて、小腸内壁にある脳神経操作ポイントを刺激すると、三叉神経に溜まったカルシウムがなくなり症状が取れていくというのだ。

論より証拠、同行の編集者に実際に体験してもらった。編集者を見て、和尚はこう言った。

「左側の眉の上を通っている三叉神経にカルシウムが溜まっており、右の肩に強いコリがある」

腰痛、肩コリが持病の編集者には、思い当たる節があるようだ。カルシウムの蓄積は通常、



腸脳療法の施術にあたって宇宙エネルギーを体内に取り入れる植村和尚

顔を触って探すが、和尚は顔を見ただけで瞬時にわかるという。これが顔面三叉神経検査だ。

施術は、仰向けに寝て行う。和尚が編集者のお腹のあたりを軽く触ったあと、起き上がった編集者は、首をかしげながらこう言った。

「あっ、確かに、右肩が楽になっています」

できすぎた話のようだが、これが目の前で起きた事実。顔面神経のカルシウム蓄積が取れて、顔の左右差もなくなっているという。

「こんなふうに小腸をピンポイントで触ると、脳の命令ごと、顔面神経検査ごと、変えることができる。簡単に言えば、三叉神経に溜まった汚れを取るということだ」

施術は一瞬のことで、何をしたのかもわからなかった。それは手技というようなものではないので、施術とはいえないのかもしれない。この「治瞭」を、「瞬間非接触治瞭」という。これも、和尚独自のものだ。

「非接触と言っているが、触角というエネルギー感覚を使い、まったく触っていないがエネルギーで触っている。それを当治瞭院では『心覚』と言う。これは波動を利用している。波動の形は周波数で決まるが、その周波数を変えることによって体を治していく」

それは、和尚の言葉を借りると、「波動を使ったエネルギー治療」だという。だから、一瞬で効果が出るのだ。

波乱万丈の人生から生まれた奇跡の「治瞭」

このユニークな「治瞭」を考え出した植村和尚には、壮絶な人生ドラマがあった。平凡に生きてきた人間には、にわかには信じられないほど波乱に富んでいる。だからこそ、誰にも考えつかないような「治瞭」が生まれたのだろう。

植村少年が13歳のとき、借金苦で父親が自殺した。17歳のときには、実の母親によって九州の「強制労働施設」に売り飛ばされた。フィリピンのスモーキー・マウンテンで働く子供さながら、毎日ゴミの山の中で働いたという。それにより嗅覚と味覚を失い、執拗なまでの暴行により触覚を失った。そのため左顔面神経は痙攣し、まったく自分の意思では動かせなくなった。このとき、四感を失ったのだという。

21歳のときにその施設を脱走。ひどい暴行を受け強制労働施設の社長に報復したい一念で、格闘技の先生の弟子になった。

しかしその先生には、整体の達人という一面があった。「人は人を壊せるだけでなく、治すこともできる」という先生の言葉で、初めて「整体治療」というものに興味を持った。

残念ながら植村和尚は、その先生から整体治療を習うことはできなかった。しかしいつしか、人を壊すのではなく治したいと思うようになっ

ていた。そこから整体への追究が始まったのだが、実生活では生きる目的を持てずに、スポーツに打ち込む日々が続いた。トライアスロンやパワーリフティングでは、かなりの好成績を収めたという。

時は過ぎて、36歳になった植村和尚は、結婚する。それを機に、昔習った少林寺拳法の経験を活かして、整体で生計を立てるようになった。

しかしそれだけでは、なかなか患者さんの症状を改善できない。そこで、ゆらし療法やカイロプラクティックを勉強し、同時に、その先生から密教を学ぶ。指を仙骨に下ろすだけで脚の長さが揃ってしまう非接触療法を見て、強い衝撃を受けた植村和尚は、エネルギーや波動の勉強を始め、自身も非接触治療を体得する。

39歳のときには、パワーリフティングで腰の椎間板を潰してしまう。自分の腰を治すために、さまざまな治療テクニックを学ぶ。その前から密教に強く惹かれていた植村和尚は、大阪摂津富田の山野寛然和尚に師事、密教を伝授された。

その後も、植村和尚の苦難は続く。38歳のときにはバイク事故を起こし、生死をさまよう大ケガをした。

その最中でも、自身の身体を実験台に体を治す研究に明け暮れ、完全瞬間非接触のオリジナルカイロプラクティックを開発する。それで、自身も健康を取り戻すことができた。

しかし、さらなる試練が、和尚を待ち受けていた。41歳のときには、末期の胆嚢がんが見つかり、余命宣告を受ける。入院するが、経済的困窮から抗がん剤などの治療を受けられず、結果として命拾いすることになる。一緒に入院していた人たちは、病院の治療で次々に亡くなったそうだ。

そのとき植村和尚を救ったのは、ある特殊な治療だった。それについては詳しく聞けなかっ

体験談

病院でもダメだった絶体絶命の危機から救ってくれた施術！

井上憲次（大阪・52歳）

平成29年はじめ、不整脈と心拍数の異常な上昇で、数メートル歩くだけで立ち止まり胸を押さえる状態に。また腰痛や足の異常なむくみなど、仕事はおろか日常生活も辛くなりました。

ただ、医者が嫌いで、自宅で耐えていたところ、親類から「すごい人がいるよ」聞き、植村和尚を知りました。和尚は「腹部大動脈解離になりかねない。とにかくすぐ入院して、安静にしなさい」と即座に指示してくれました。

病院の診断は、「心臓に水が潜まり、急性心不全を起こしている」。和尚の施術時、原因は血管の糖化によるとのこと。退院後、指導していただいた砂糖断ちと3回の施術で、私を病苦から救い出してくれた瞬間技に、感動しました。和尚ありがとうございます。

たが、その後植村和尚の治療はさらに進化して、翌年、ＢＲＴ（Brain Rejoint Therapy）を開発。切断された脳神経のネットワークを再結合（rejoint）する治療だという。

このころ、植村和尚は東京都内に整体院を開設。心の傷と体の関係を顔面三叉神経検査によって解明し、トラウマなどによって起きる難治性の痛みが改善する例が相次ぐようになった。

こうした経緯を経て確立したのが、「腸脳整体」だ。２０１３年、脳と神経を支配する小腸の脳神経操作ポイントを発見し、腸で脳神経を操作できるようになった。

宇宙エネルギーを内臓で受信して、腸で変換する

このめまぐるしい人生の転換は、まるでドラマを見ているようだが、一貫しているのは、植村和尚が「人を治す」ことに心血を注いできた

ことだ。それは和尚自身が、何度もケガや大病で生死の境を生きてきたからだろう。そして和尚の頭の片隅には、若いころに出会った格闘家であり、治療の達人でもあった、あの先生の言葉があったのではないだろうか。

腸脳療法は、これまで書いてきたように、小腸の内壁の治療ポイントを操作することによって、脳の命令を変え、痛みや症状を取る治療だ。腸は顔面三叉神経を介して脳とつながっており、腸の操作ポイントは三叉神経と対応しているという。「しかし」と、植村和尚は言う。

「対応はしているが、漢方のツボのように、誰もが同じところに対応しているわけではない。小腸の操作ポイントは人によって、9割以上違う。私は顔を見るだけでわかるが、それをスキャンする技術がある。それさえ覚えれば、誰にでも操作ポイントがわかる」

そのスキャンの方法は、宇宙誕生以来のすべての記憶を持つという「全天球型アカシックレコード」にアクセスするとわかるという。全天球型アカシックレコードは「宇宙図書館」とも呼ばれ、過去から未来まで時空を超えて、あらゆる存在物のすべてが描かれているそうだ。

腸脳療法は、この宇宙エネルギーを利用する。

「宇宙エネルギーを受信しているのは、内臓だ。それが小腸で変換されて、脳に送られる。だから、腸は脳を支配して、すべての脳命令を決めることができるのだ」

この壮大なバックグラウンドを持つ腸脳療法によって、腰痛はどのように「治瞭」されるのか。

そろそろ、本題の腰痛の話に入ろう。

治らない腰痛は内臓を疑え

腰痛といえば、椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄

症がすぐに浮かぶ。椎間板ヘルニアは椎間板の中の髄核が飛び出して神経を圧迫する疾患、脊柱管狭窄症は脊柱管が狭くなり、神経が圧迫される疾患だ。

「腰痛は、一般的にはそうした物理的変化が腰に起きているから痛いといわれているが、それはウソだ。そうした器質的変化がないのに、腰に激痛のある人はいっぱいいる。一方、ヘルニアがあるのに、4割の人は痛みを感じていないという現実がある。脊柱管狭窄症も、然り。

では、ヘルニアや狭窄がないのに、痛みがあるのはなぜか。そこには何らかの、別の原因があるはずだ。その原因さえ見極められれば、良くなる人は非常に多い。それが見極められないから、治癒に辿り着けないのだ」

そして和尚は、こう言いきった。

「治らない腰痛の多くは、内臓に原因がある」

そのなかで多いのは、腎臓の異常だという。

「腰が痛い人は、だいたい左の腎臓が悪い。そこを打診すると、必ず響く。腎臓で血液が濾過されず、血液の質が悪いから、それが痛みの原因になる。この血液の状態を見極めて血液の質を変えれば、瞬時に腰痛は良くなる。顔面三叉神経の検査も、消える」

腎臓に原因がある場合、たいていその人は顔色が悪いという。血液が濾過されず、肌や粘膜が薄黒くなるからだ。

「副腎が悪くても、大腸に捻転や閉塞や重複があっても、腰痛の原因になる。大腸が捻じれたり、重なったりしていると、他の臓器から圧迫を受ける。すると、脂汗をかくくらい腰が痛くなる。それを腰痛と勘違いして腰を揉んだりしても、絶対に良くならない」

もっと深刻なケースは、大動脈解離が原因となる腰痛だ。大動脈解離は、動脈の血管壁に亀裂が入り、内側の内膜の壁と中膜の壁が分離し

てしまう病気だ。突然発症すると、そのまま死に直結することがある。

「これは、大動脈の内膜が糖化して起きている。糖化というのは、タンパク質が糖と結びついて組織が弱くなってしまった状態だ。そこに圧力がかかると、血管が簡単に裂けてしまう。この状態を早めに見極めて治すことができると、大動脈解離を予防できるだけでなく、原因不明の腰痛も良くなる」

こんな患者さんがいたという。その人は、30年来の腰痛に悩まされていた。和尚のところには心不全に悩んで来たが、血管にステントを入れる手術をしても、心不全の状態が良くならない。見ると、大動脈解離寸前だったので、すぐに「治瞭」した。その結果、長年の腰痛も心不全の症状もすっかり良くなったという。

「原因は、腰の真横にある大動脈の内膜糖化だった。心不全だと、病院は心臓しか見ない。ところが、原因は心臓ではなく、大動脈にあった。だから、手術しても治らなかったのだ」

血管ごと、内臓ごと見ないと、腰痛は治らない

ギックリ腰は、内臓が硬直して起きるパターンが非常に多いそうだ。「それなのに」と、植村和尚は言う。

「内臓も筋肉だ。多くの整体や整骨院の先生は、筋肉や骨格を見るのに、なぜ内臓を見ないのか。私は、内臓も血管も全部見る。大動脈や大静脈は、その裏側からも見る。大動脈に糖化が起きれば、その裏側にある内臓も必ず痛んでおり、それが腰痛の原因になるからだ。だから、血管ごと、内臓ごと見ないと、腰痛は良くならない。それが、どんな施術をしても治らない腰痛の、本当の原因だ」

それを見極める方法が、先ほど書いた全天球

体験談

海外で見舞われた原因不明の激痛が、和尚の施術でその場で完全解消！

ドイツ在住S・K（プロサッカー選手・20歳）

ドイツで行った試合後、骨盤に激痛が走り、立ち上がれなくなってしまいました。その後は、松葉杖を使って生活をする状態。チームトレーナーはもちろん、あらゆる病院や治療院で診てもらいましたが、原因がわからず、痛み止めの処方をされるだけでした。

帰国して、知人の紹介で出会ったのが真言宗の和尚である植村和尚様でした。そこで指摘されたのが、「痛みの原因は血管にある」ということでした。まさか血管が原因で、こんな激痛に悩まされているとは思ってもいませんでした。

誰も取れなかった腰の激痛が一度の施術で完全解消！　悪くなった原因をちゃんと説明してくれて、食生活の指導もしてくれました。とにかくすごい和尚様です。

型アカシックレコードのスキャンだ。全天球型アカシックレコードにはすべてが書かれているので、その見極めが正しければどんな難病、どんな重症腰痛でも治せるという。スキャンの方法を見つけた植村和尚でも、その概念がなければ見極められないことがあり、それは治せないそうだ。

こうした内臓の問題のほかにもう一つ、植村和尚が指摘するのは、心の問題だ。

腰痛の原因に腎臓の機能の低下があることは、先にも書いた。ではなぜ、腎臓が悪くなって血液の濾過機能が落ちるのか。その原因に、ストレスや心の傷があるという。

「心に傷があると、体内の電流が強く流れて、交感神経が優位になる。すると、筋肉が縮んで血流が悪くなり、血液がドロドロ状態になる。それが腎臓のところで滞って、濾過ができなくなってしまうのだ。だから、ストレスや心の傷

も、腰痛を治すうえで重要になる」

腰痛の80％は原因不明といわれており、その多くはストレス性だという指摘もある。そこで大事になってくるのが、カウンセリングだ。

「治瞭」は「心覚カウンセリング」がすべて

植村和尚の「治瞭」は、全部で90分。30分が問診で、30分が施術、最後の30分がアドバイスだ。これを見てもわかるように、施術の時間より問診やアドバイスのほうが長い。和尚は、それをこう説明する。

「腰の治瞭は、ハッキリ言って『心覚カウンセリング』がすべて。体の状態はその人の顔を見れば、だいたいのことはわかるが、『心覚カウンセリング』によって引き出されることも多い。

私の根幹治瞭は、その人の心の傷を見つけ、その人が解決しなければならない精神状態や問題点を見極めて、それをその人に伝えることだ。ここが解決しないと、いくら施術したり、生活指導をしたりしても良くならない。心の傷は身体に現れる」

心の状態がおかしくなると、脳にＢＩＭ、すなわち脳内不活性物質が溜まってしまう。すると、必ず内臓に器質的な変化が出てきて、顔面三叉神経にカルシウムの蓄積として現れる。それを見極めることで、内臓のどこが悪いのか、筋肉のどこが悪いのかが、わかるそうだ。

術後の「心覚カウンセリング」も重要なようだ。ここでは食べ物や生活習慣にも話が及ぶ。そこにも、既存の常識を疑う植村和尚独特の考え方が反映されている。

しかし一番大事なことは、その人自身が自分の課題に向き合うことだ。課題に向き合えば、心の傷は良くなっていく。和尚が「治瞭」をしなくても、本人が課題に気づけば、いや気づい

た瞬間に、腰痛が良くなることがあるという。それで、治った人が何人もいるそうだ。その気づきをもたらすものが、術前と術後の「心覚カウンセリング」だ。

ちなみに、和尚のホームページには、和尚の「治瞭」を受けて良くなった人が実名、顔出しで体験を語っている。いずれも、病院や治療院で何ヵ月、何年も改善しなかった人ばかりだ。「病院各種治療院に3ヵ月以上通って治らない人のみ受け付ける」という意味が、ようやくわかってきた。

バイクで全国行脚、行く先々でセミナーは大盛況

植村和尚は、1年の大半は全国行脚している。しかも、2000ccのバイクで日本を一周するというから、驚く。行く先々には、弟子たちが開業する「治瞭院」があり、和尚を待っている患者さんたちがいる。

そこでセミナーを開き、施術を行う。飛び入りで、重症腰痛やがんの患者を「治瞭」することもある。すると、その場で腰痛が治ったり、体の歪みが取れたり、症状が改善したりする。その劇的な効果を目の当たりにして、一瞬でファンになる人が後を絶たないという。

最初に、和尚が私たちに言った言葉がある。

「目の前で、瞬間的に変化を見せる」

まさに、効果をその場で見せるのだ。セミナーには、すでに整体院、整骨院を開業している施術家の参加者も少なくない。言葉だけでなく、実践でその効果を示す説得力が彼らを魅了しているようだ。おそらく、技だけでなく、その人間性も含めて……。

和尚の理論、技を勉強して、開業を希望する人も多い。彼らが独り立ちできるようになるまで、和尚は彼らを見守っている。

「私の技は、勉強すれば誰でもできるようになる。なぜなら、1＋1＝2であるように、私の技も真理であり、再現性があるからだ。だから、私の弟子たちはみんな、立派に独り立ちし、この仕事で飯を食っている。そこまで育てるのが、私の仕事。ただし、地味な反復練習ができない人はダメだ」

最後に和尚は、記者にこう言った。

「この事業をフィリピンで成功させて、最下層にいる子供たちに読み書きを教えたい。自分は読み書きができたからゴミの山から脱出できたが、字を読めない子供はそれができない。その最下層で暮らす戸籍のない子供たちを助けたいというのが、私の夢だ」

その視線の先にあるのは、スモーキー・マウンテンの子供たちに重なる、過去の自分の姿なのだろう。

ACCESS DATA

腸脳療法アースホワイト

●**金沢野々市本部**　石川県野々市市堀内2-180　アースホワイトビル2F
フリーダイヤル0800-200-9177　http://earthwhite.co.jp

・東京支部　東京都文京区湯島2-4-1　TORYU OCHANOMIZU 702
・大阪支部　大阪府大阪市淀川区西中島5-8-29　402
・名古屋支部　愛知県北名古屋市鹿田栄248　株式会社高尾木材2F
・岡崎支部　愛知県岡崎市美合町大新田77-1
・岡山支部　岡山県岡山市北区伊福町3-26　103
・香川支部　香川県綾歌郡宇多津町新開2571-3　906
・松山支部　愛媛県松山市住吉2-9-24　303
・福岡支部　福岡県福岡市南区長丘4-5-3　101
・沖縄文郎　沖縄県那覇市寄宮3-12-l0　203
＊心療庵　金沢本部・名古屋支部